

編集後記

インフォメーションテクノロジーセンター副所長
社会安全学部准教授 河野和宏

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、大学の講義も原則対面で行われるなど、かつての日常が戻りつつある。他方で、完全に元に戻るのではなくより活気のある未来にしていくため、コロナ禍で浸透したオンライン会議に代表されるように、業務環境のオンライン化や各種プロセスのデジタル化を積極的に進め、DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現する必要がある。

本号にご投稿いただいた2篇は、どちらも大学のDX推進に関する内容となっている。榊原先生の「経済学部におけるBYODの導入について」では、経済学部における学生のノートPC必携化の導入の経緯と、必携化を実現するために必要な制度設計について紹介している。演習科目のOSごとのクラス分けを実現するプロセスや演習を担当する教員の調整の方法など、BYOD環境下において演習を円滑に進める上で、多くの示唆に富む内容が含まれており、同じくPC必携化を進めた筆者が所属する社会安全学部でも参考にしたいと思う。

松田先生の「心理学専攻の学生における情報端末利用状況の推移—コロナ禍前後の比較—」では、コロナ禍前後における学生の情報端末の利用状況の変化という、大学教員ならだれもが興味を持つ内容の報告となっている。BYODが推奨である社会学部であっても、90%を超える学生がPCを所有していること、家族共用も含めればほぼ100%の学生がPCを自宅利用できる環境にあることは、近年のスマートフォンは持っていないという状況が大きく変わっていることを示している。この流れを途切れさせないためにも、教員である筆者も、学生の学びの質の向上を目指して講義内容を変革させていければと考えている。

さて、前年度の年報の編集後記にて、谷田所長より、CSIRT（Computer Security Incident Response Team: コンピュータに関するセキュリティ事故対応チーム）が発足したとのご報告がなされていた。ITセンターHP内のCSIRTのページにもある通り、本学のCSIRTは、名前の由来から連想される情報セキュリティインシデント発生時の対応だけでなく、平常時の活動も対象となっている。そこで、CSIRT内でも議論を重ね、2022年度は職員向けに標的型攻撃メール訓練を実施する運びとなった。本学では初めての試みであったため、費用対効果や実施時の業務への影響など、多くの不安はあったものの、無事に訓練を行うことができた。詳細は、本号の「2022年度 標的型メール攻撃訓練について」に譲るとして、訓練後の

アンケート結果からは、本訓練を好意的に受け止めていただき、かつ、職員の意識向上に有効であることもわかった。セキュリティの維持には一人ひとりの意識向上が必要不可欠であることから、これからも IT センターの一メンバーとして、本学の IT 環境・セキュリティの向上に貢献していく所存である。

最後に、現代において IT 自体はどこの学部・部署でも必要なものとなっている。ご投稿いただいた 2 名の先生方だけでなく、ICT 環境を維持しつつより良くしようと日々奮闘している多くの関係者のみなさまに謝意を表して編集後記を締めくくることにしたい。